

## 指定等の答申をした文化財の概要

国宝（美術工芸品）

どぐう  
土偶

一箇

やまがたけんにしのまえいせきしゆつど  
山形県西ノ前遺跡出土

【大きさ】高 45.0cm

【所有者】山形県（山形県立博物館保管）

本資料は、逆三角形で扁平に造られた胴部に、太い角柱状の左右の脚部を接合し、女性像に仕上げられた縄文時代中期の立像土偶である。

縄文時代の土偶造形のひとつの到達点を示す優品として代表的な資料であり、学術的価値が極めて高い。

（縄文時代）



国宝（建造物）

## 歓喜院聖天堂

【所在地】 埼玉県熊谷市

歓喜院は高野山真言宗に属し、治承3年（1179）の創建と伝わる。現在の聖天堂は、享保5年（1720）に歓喜院院主海算が再建を発願、民衆の寄進を募り、地元の大工林兵庫正清によって建設されたものである。

奥殿、中殿、拝殿よりなる権現造の形式で、延享元年（1744）に奥殿と中殿の一部が完成し、宝暦10年（1760）までに中殿と拝殿が完成した。とくに奥殿は多彩な彫刻技法が駆使され、さらに色漆塗や金箔押などによる極彩色を施してきらびやかに飾る。また、拝殿正面を開放として参詣の便をはかるなど庶民信仰の隆盛を物語る建物である。

聖天堂は、江戸時代に発展した多様な建築装飾技法がおしみなく注がれた華麗な建物であり、技術的な頂点の一つをなしている。このような建物が庶民信仰によって実現したことは、宗教建築における装飾文化の普及の過程を示しており、我が国の文化史上、高い価値を有している。



## 名護市嘉陽層の褶曲

【所在地】 沖縄県名護市

現在の日本列島の骨格は、3億年ほど前からの海洋プレートの沈み込みに伴う地層の付加作用により形成されてきたことが明らかになってきた。サンゴ礁に縁取られた沖縄地域も例外ではなく中生代三畳紀以降、概ね西側から東側に向かって次々と堆積物が付加されて成長してきたことが分かってきた。こうして付加された堆積物のうち一番新しいものが沖縄本島の東海岸に分布している。沖縄県名護市天仁屋からバン崎にかけての海岸には、今から4000万年ほど前の新生代古第三紀始新世という時期に付加された嘉陽層と呼ばれる地層が典型的に分布する。

嘉陽層は、当時の海溝付近の深海に堆積したタービダイトと呼ばれる砂岩と泥岩の互層からなる地層が、プレートの沈み込みに伴い次々と陸側に付け加わった付加体の地層を主体とする。嘉陽層の中では、地層の様々な堆積構造、海底地滑りによる地層、沈み込むプレートの圧力により形成された逆断層、ことに地層の褶曲現象が典型的に発達する。嘉陽層の地層は、地質学の基本的な現象である褶曲構造が見事に発達するほか、砂岩層の堆積作用を示す様々な構造、嘉陽層が堆積した深海底の環境を示す生痕化石、さらには、プレートの沈み込みにより付加された地層が示す様々な現象が保存されており、きわめて重要である。



